令和6年2月15日発行（毎月1回15日発行） ISSN 2436-7176

日本地質学会 News

Vol.27 No.2 February 2024

一般社団法人日本地質学会
The Geological Society of Japan

理 事

任期：2022 年 6 月 11 日から 2024 年総会

会長（代表理事） 岡田　誠（茨城大学）

副会長 杉田律子（科学警察研）
星　博幸（愛知教育大学）

常務理事 中澤　努（産業技術総合研究所）
副常務理事 緒方信一（中央開発（株））
執行理事 内尾優子（国立科学博）
内野隆之（産業技術総合研究所）
尾上哲治（九州大学）
加藤猛士（川崎地質（株））
狩野彰宏（東京大学）
亀高正男（大日本ダイヤコンサルタント（株））
小宮　剛（東京大学）
坂口有人（山口大学）
高嶋礼詩（東北大学）
辻森　樹（東北大学）
松田達生（工学気象研究所）
矢部　淳（国立科学博）
山口飛鳥（東京大学大気海洋研究所）

理　事 青矢睦月（徳島大学）
芦　寿一郎（東京大学）
天野一男（東京大学空間情報科学研究センター）
磯﨑行雄（東京大学）
大友幸子（山形大学）
大橋聖和（山口大学）
笠間友博（箱根町立箱根ジオミュージアム）
神谷奈々（同志社大学）
亀田　純（北海道大学）
川村紀子（海上保安庁海上保安大学校）
北村有迅（鹿児島大学）
清川昌一（九州大学）
黒柳あずみ（東北大学学術資源研究公開センター）
桑野太輔（千葉大学）
小松原純子（産業技術総合研究所）
斎藤　眞（産業技術総合研究所）
佐々木和彦（佐々木技術士事務所）
沢田　健（北海道大学）
下岡和也（愛媛大学）
菅沼悠介（国立極地研究所）
高野　修（石油資源開発（株））
西　弘嗣（福井県立大学恐竜研究所）
野田　篤（産業技術総合研究所）
細矢卓志（中央開発（株））
保柳康一（信州大学）
堀　利栄（愛媛大学）
松田博貴（熊本大学）
三田村宗樹（大阪公立大学）
道林克禎（名古屋大学）
矢島道子（東京都立大学）
山路　敦（京都大学）
山本啓司（鹿児島大学）

監 事

任期：2020 年 5 月 23 日から 2024 年総会

岩部良子（応用地質（株））
山本正司（山本司法書士事務所）

一般社団法人日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町 2-8-15　井桁ビル
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156（振替口座　00140-8-28067）
e-mail: main@geosociety.jp　ホームページ http://geosociety.jp

日本地質学会*News*

Vol.27 No.2 February 2024

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　松田達生
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

会長・副会長立候補意思表明者への意向調査（延長）結果報告……2

各賞・研究助成……3
2024年度深田野外調査助成募集/日本学術振興会特別研究員-RPDの募集/国土地理協会2024年度学術研究助成

CALENDAR……4

紹介……5
ヒマラヤ山脈形成史　酒井治孝著（在田一則）

博物館・ジオパークで地球を学ぼう！（26）……6
陸前高田市立博物館：ふるさとのたからは失われていない

支部コーナー……8
2024年度関東支部総会・講演会開催のお知らせ（第２報）/
講演会　県の石―千葉の岩石・鉱物・化石　報告

学会記事……10
2023年度第5回執行理事会議事録/
2023年度第6回執行理事会議事録
2023年度第2回理事会議事録

表紙紹介……14
第14回惑星地球フォトコンテスト：ジオパーク賞「個性豊かな、まぁ～るい畑」（高場智博）

巻末　会費口座振替依頼書

表3　入会申込書

2024年学術大会（山形）
トピックセッション提案募集中

締切：2024年3月27日（月）

詳しくは，ニュース誌１月号または学会HP をご参照ください．

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

会長・副会長立候補意思表明者への
意向調査（延長）結果報告

2024年2月14日

一般社団法人日本地質学会
選挙管理委員会委員長　金澤直人

開票立会人　坂田健太郎
開票立会人　山内　彩華

選挙規則ならびに選挙細則に基づき，標記意向調査を実施いたしました．

法人の代表理事は法律により，理事会において選任することが定められています．改選の年には，学会の代表理事となる会長およびその補佐役の副会長を選出するにあたり，会員の皆様の意向を伺うための意向調査を毎回実施しています（※）．

当初定めた意向調査期間（1月10日(水)17時締切）では，投票総数が87票（これまでの10分の1程度の票数）でした．本意向調査は，理事会が正副会長を選出する際に参考にする大変重要な調査であるため，理事および監事選挙の立候補期間終了日の2月7日（水）17時まで延長いたしました．

意向調査の結果は，下記のとおりとなりました．改めてご報告いたします．

１）意向調査の実施結果

有権者総数	3212名
総投票数	329件

２）開票結果（白票　3件）

会長意思表明者（得票数）

1　山路　敦（319）

副会長意思表明者（得票数）

1　星　博幸（318）
2　杉田律子（308）

※（参照）理事会規則　第2章　役員の選任，第3条（会長，副会長，執行理事の選任）

第２章　役員の選任
（会長，副会長，執行理事の選任）
第３条　理事会は，役員改選後の第１回理事会において，会長および副会長候補者を選任する．なお，選任にあたっては，会員の意向投票を尊重する．

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します.

2024年度深田野外調査助成募集

趣旨：公益財団法人深田地質研究所では，1993年以来，「深田研究助成」を行って，地球科学を研究する若手研究者を支援してきました．さらに，2018年度から，大学在学中の学生に対しても「深田野外調査助成」を開始しました．深田野外調査助成は，地球科学に関連する分野を学んでいる学生を対象にして，その研究遂行のために，国内における野外調査の支援に特化した助成です.

応募資格：大学に在学中で，地質・地球物理・地球環境・地盤・建設・エネルギー資源などの分野を専攻する，学部生，博士前期課程（修士課程）及び博士後期課程の学生．また，高等専門学校の専攻科に在籍し，上記の分野を専攻する学生.

推薦者：推薦者は，申請者の研究を直接指導している方に限ります．なお，同一の推薦者が複数の学生を推薦する場合は，順位をつけて推薦してください.

採択件数および金額：

１）採択件数　20件

２）助成額の総計　300万円

３）1件あたり　15万円

申請書提出締切日　2024年4月12日（金）

問い合わせ先

〒113-0021　東京都文京区本駒込2-13-12

公益財団法人深田地質研究所　総務部　高木

E-mail：grant@fgi.or.jp

※問い合わせは，メールのみでの対応とさせて頂きます．ご理解ご協力をお願い申し上げます.

詳しくは，https://fukadaken.or.jp/?page_id=6167

日本学術振興会特別研究員-RPDの募集

日本学術振興会では．我が国の優れた若手研究者に対して．自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え．研究者の養成・確保を図る制度として．特別研究員事業（特別研究員-PD，DC，RPD）を運営しております.

このたび．出産・育児のために研究を中断した博士の学位取得者を対象とした「特別研究員-RPD」について．申請資格を広げて申請を受け付けます（未就学児の養育→小学生以下の子の養育）.

申請資格：2025年4月1日現在，博士の学位取得者（申請時は見込みでも可）で，所定の期間中※に出産・育児のため，6週間以上研究活動を中断し，かつ以下のいずれかに該当するもの.

①2024年4月1日時点で小学生以下の子を養育しているもの

②出産または疾病や障害がある子を養育したもの

③2024年4月2日以降申請期限までに出産した（予定も可）もの

※詳細は，募集要項を確認してください.

受付期間：2024年3月中旬～5月13日（月）17:00

特別研究員事業ウェブサイト：

https://www.jsps.go.jp/j-pd/

特別研究員-RPD募集要項ウェブサイト：

https://www.jsps.go.jp/j-pd/rpd_sin.html

国土地理協会 2024年度学術研究助成

１．助成対象となる調査・研究について

①地理学および関連する分野の学術的調査・研究

②地図・地名に関する学術的調査・研究

③地理・地図・環境等に関する教育・普及を目的とした研究および活動

２．助成の対象となる方について

大学院博士課程を修了し，もしくは同等以上の能力と研究経験を有し，大学その他の教育機関や研究機関・博物館・図書館等に在職（または在学）して調査・研究に従事している，個人または研究グループ．なお，これらの機関で常勤の職に就いている者に限って，助成を申請する代表者となることができます．（大学院在学の場合は，指導教官等）ただし，過去5年間に本助成に採択され，助成金を受領した方の応募は対象外とします.

３．助成金額について

①対象1，2に関しては1件につき100万円を限度とする申請額．対象3に関しては1件につき50万円を限度とする申請額.

②審査の結果，申請額から減額して助成する場合があります．必ずしも調査・研究とは直接的に関係しない，日常的に使用する機器類等の費用や研究者として自己負担するのが適当と思われる費用(パソコンおよび一般的な周辺機器・PCソフトウェア，学会参加のための旅費や会費etc.)は，助成の対象としません.

③支出費用（旅費，謝金等）については，詳細を申請書に明記して下さい．また，助成研究が完了しましたら「会計報告書」と，全支出の領収書（コピー可）を添付して定められた期日までに提出していただきます.

申請の受付：2024年4月1日（月）～4月15日（月）必着

審査結果の通知：2024年７月

お問合せ先

（公財）国土地理協会　助成事業担当

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番1号

josei@kokudo.or.jp

詳しくはHPを参照してください.

https://www.kokudo.or.jp/grant/

CALENDAR

2024.3〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2024年

2月　February

★日本地質学会第10回ショートコース
テーマ「海底鉱物資源」
2月25日（日）9:00〜17:00
オンライン（zoom)

3月　March

★西日本支部令和5年度総会・第174回例会
3月2日（土）
会場：薩摩川内市川内駅コンベンションセンター SSプラザせんだい
https://geosociety.jp/outline/content0025.html

海と地球のシンポジウム2023
3月1日（金）〜2日（土）
開催方法：口頭発表、ポスター発表ともに実会場にて実施.
会場：東京大学弥生キャンパス 弥生講堂
https://www.jamstec.go.jp/j/pr-event/ocean-and-earth2023

★第4回JABEEオンラインシンポジウム
大学縮小危機のなかで、社会の要求にどのように応えるか〜JABEEを活用した技術者の育成と輩出〜
3月3日（日）13:30〜17:20（予定）
オンライン（zoom）

令和5年度海洋プラスチックごみ学術シンポジウム
主催：環境省
【研究セッション】（オンライン）
3月9日（土）9:00〜16:30予定
対象：研究者や専門家を対象
参加費無料，定員：1000名（要参加登録：3/6締切）
【特別セッション】（対面）
3月19日（日）9:00〜12:00予定
対象：一般の方を対象
場所：秋葉原UDXシアター（東京都千代田区外神田4丁目）
参加費無料，定員：150名（要参加登録：3/15締切）
https://www.env.go.jp/press/press_02577.html

防災学術連携体「令和6年能登半島地震・3ヶ月報告会」
3月25日（月）9:00〜14:40
YouTubeライブ配信（予定）
https://www.youtube.com/watch?v=3aZzeqPZoTg

4月　April

★2024年度関東支部総会・講演会
4月20日（土）14:00〜16:45
場所：北とぴあ第2研修室（東京都北区王子）
講演：数値地形画像を用いたダイナミックな地表面変位の可視化
講師：向山 栄氏（国際航業株式会社 公共コンサルタント事業部）
https://geosociety.jp/outline/content0201.html

日本堆積学会 2024 年熊本大会
4月20日（土）〜 22日（月）
会場：熊本大学（黒髪南地区）
http://sediment.jp/

6月　June

地質学史懇話会
6月15日（土）13:30〜17:00
場所：北とぴあ 807号室（東京都北区王子）
中島由美：平賀源内の秋田行き
小川勇二郎：北米コルディレラの地質とテクトニクスの新設
問い合わせ：矢島道子 pxi02070@nifty.com

7月　July

（後）第61回アイソトープ・放射線研究発表会
7月3日（水）〜5日（金）
会場　日本科学未来館 7階 未来館ホールほか（東京・お台場）
https://www.jrias.or.jp/

8月　August

地学団体研究会第78回つくば総会
8月17日（土）〜18日（日）
会場：つくばカピオ（茨城県つくば市）
https://www.chidanken.jp

9月　September

★日本地質学会第131年学術大会（2024山形）
9月8日（日）〜10日（火）
会場：山形大学小白川キャンパス

日本鉱物科学会2024年度年会・総会
9月12日（木）〜14日（土）
会場：名古屋大学東山キャンパス
https://jams-mineral.jp/meeting/

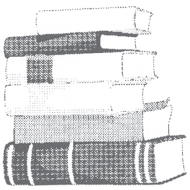
（協）地盤技術フォーラム2024
9月18日（水）〜20日（金）
東京ビックサイト・東ホール
http://www.sgrte.jp

10月　October

2024年度日本火山学会秋季大会（学術講演会）
10月16日（水）〜18日（金）
会場：道立道民活動センター「かでる２・７」（札幌市中央区；予定）
http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html

11月　November

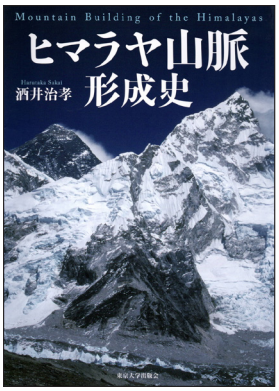
国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2024年総会及び第21回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム
11月18日〜22日
場所・会場：マレーシア,クチンのWater Front Hotel
参加登録及び発表要旨締切：3月31日
参加登録及び発表要旨提出先：iagr2024@curtin.edu.my
問合せ：Prof. Nagarajan Ramasamy, Curtin University, Malaysia
E-mail: nagarajan@curtin.edu.my



紹　介

ヒマラヤ山脈形成史

酒井治孝　著



東京大学出版会　2023年3月16日発行，
A4判ハードカバー，207ページ，
ISBN：978-4-13-060768-1，
定価7,200円＋税

ヒマラヤ山脈は約5,000万年前に始まるインド亜大陸とアジア大陸の衝突により誕生し，西のNanga Parbat syntaxisから東のNamcha Barwa syntaxisまで延長約2,400kmにわたってチベット高原の南縁を飾る花綵のように一段と高く聳えている．チベット高原とともに地球上もっとも高くかつ広いこの隆起域の形成史や深部構造は，アジアモンスーンの誕生と変遷とも関わっており，この30年ほどそれらの形成プロセスとメカニズムの解明に各国の研究者が凌ぎを削っており，本書の著者酒井治孝さんもその一人である．

ヒマラヤの地質構造は，南から北へ（構造的には下から上へ），サブヒマラヤ帯，低ヒマラヤ帯，高ヒマラヤ帯，テチスヒマラヤ帯の4帯に区分され，それぞれは北傾斜の衝上断層などによって境されている．その中で，高ヒマラヤ変成岩類のサブヒマラヤ帯近くに達する100kmを超す巨大ナップ（一部はクリッペ）の形成機構や低ヒマラヤ帯に見られる逆転変成作用の成因については古くから注目されている．著者はこの二つの問題に対しCrustal channel flowモデルと巨大ナップの放射年代データから一つの解を与えている．

冒頭の14ページにわたる78点のカラー口絵は圧倒的である．つづく以下の章立てでヒマラヤの地質のさまざまな話題が紹介されている．

1章　ヒマラヤ山脈の地形と地質の概観
2章　大陸衝突とその証拠
3章　レッサーヒマラヤに記録された19－16億年前の地球史
4章　レッサーヒマラヤに残る超大陸パンゲアの痕跡とテチス海の消滅
5章　沈み込み，変成したインド亜大陸とその再溶融
6章　ヒマラヤの誕生―1500万年前の変成帯の地表露出
7章　テチス海に5億年にわたって堆積した1万メートルの地層
8章　北方にすべり落ち，横臥褶曲したテチス堆積物
9章　レッサーヒマラヤに押し被さった巨大な変成岩ナップ
10章　変成岩ナップの運動史を探る
11章　変成岩ナップ，レッサーヒマラヤ，高ヒマラヤの熱履歴を探る
12章　前縁盆地と深海扇状地の堆積物からヒマラヤの謎を解く
13章　前縁山地マハバーラトの上昇
14章　現在の地殻変動―地震・活断層・温泉
15章　ヒマラヤ山脈形成のメカニズムを探る

著者は，大学院博士課程を休学し，1980年から3年間JICA青年海外協力隊員としてネパールの国立トリブバン大学の地質学教室に講師として赴任し，その間中央ネパール南部のタンセン地域で東西約65km×南北約17kmの広汎なマッピングを行い，詳細な岩層記載をもとに層序を確立し，複雑な地質構造を解明した．著者のその後のネパール各地での調査研究はタンセン地域で確立した層序や構造の解析がその基礎になっている．さらに，西ネパールと東ネパールで高ヒマラヤ変成岩類のナップに覆われているタンセン層群最上部の上部漸新統～下部中新統ドゥムレ層中に白雲母が形成されていることを見つけたことがその後の放射年代学的研究の端緒であった．高ヒマラヤ変成岩類に含まれるジルコンやアパタイトのFT年代を測定し，南のナップ先端におけるジルコンとアパタイトはそれぞれ12～11Maと7Ma，北のルートゾーンではそれぞれ3Ma～2Maと1Ma～0.8Maであり，ジルコンとアパタイトの閉鎖温度（250℃，120℃）線が徐々に北へ移動していることを示した．さらにFT法のほか^{40}Ar-^{39}Ar法，Rb-Sr法による年代測定の結果から，30Ma頃チベットの下に沈み込んだインド亜大陸地殻は厚化によって中圧型変成作用を被り，その後チベットの中部地殻（潜り込んだインド亜大陸地殻）は延性的なCrustal channel flowとして絞り出され，それが高ヒマラヤ変成岩類として15Ma頃に地表に現れ，この変成岩ナップは前面に広がっていた河川堆積物であるドゥムレ層を覆って300℃ほどの温度を保って約2.5cm/年の速度で南進し，100km近く進んで11Ma頃に停止した，その後変成岩ナップは冷却し，250℃の等温線は8～9mm/年の速さで北へ側方冷却したとしている．

Crustal channel flowという考え方は，Gurjic etal. Gurjic et al.（1996）により高ヒマラヤ変成岩のファブリック解析から，またBeaumont et al.（2001）によりモデルシミュレーションにより提唱されていたが，著者は放射年代研究者との共同研究によりこのモデルを具体的な過程として示した．

本書は高ヒマラヤ帯変成岩ナップやそのルートゾーンおよびレッサーヒマラヤの熱履歴からヒマラヤ山脈形成のメカニズムを論じたのが主題であるが，ヒマラヤ形成に関わり，19億年前の古原生代から古カトマンズ湖成立の第四紀までの時間のながれ，そして南は超大陸コロンビアの一部であったインドから北はチベット高原を作る小大陸までの広範な地域の話題を，著者の研究成果と既存の多数の文献（300点以上）をもとに紹介している．例えば，タンセン層群のタルトゥン層に挟まる粗面岩溶岩が，その上部にある植物化石やジルコンのU-Pb年代から，インド亜大陸のラジマハール-シレット溶岩とほぼ同時代としてゴンドワナ大陸の分裂の様子を復元したり，低ヒマラヤ帯のカリガンダキ累層群の層序と堆積環境，そこに貫入する玄武岩（変成している）の岩石研究者との共同研究によりリフト起源として，それらをカナダ北西部のコロネーション累層群や北中国クラトンの長城層群に対比し，19～17億年前の超大陸コロンビアの分裂を議論している．このように，ヒマラヤに関連させて地球史を議論しており，たいへん面白い．

14ページのカラー口絵には，グーグル衛星画像，ヒマラヤ全域およびネパールの地質図と地質断面図，またそれぞれの章に関連する多数の露頭写真や岩石・化石の薄片写真があり，各章にあるコラム記事とともに理解を助けている．

難点を言うならば，年代の表記を，本文では「100万年前」，図表では「1Ma」としており，わずらわしい．また，本書には誤植や誤記が散見される．最初に目についたのは，扉裏にある「詳細な解説は巻末（p.187）の・・・」とあるが，正しくは「詳細な解説は巻末（pp.200～204）の・・・」である．1章冒頭には「対局構造（シンタックス）」とあるが，「対曲構造（シンタキシス）」である．同ページには，ヒマラヤについて「西方ではカラコルム山脈につながり，K2（8611m）付近で南に屈曲し，」とあるが，これは「西方ではナンガパルバット（8126m）付近で南に屈曲し，」とすべきである．カラコルムはヒマラヤの西方ではなく，インダス川の北側にある山脈で，この表現は誤解を生ずる．誤植・誤記のほか，引用の間違いや脱字もあり，校正が不十分と言わざるを得ない．版を改める際には十分に点検し，修正していただきたい．

とは言え，本書は最近のヒマラヤ研究の動向を網羅するとともに，著者のリーダーシップと共同研究者たちによるヒマラヤ山脈形成史の一つの考えを明確に提示しており，著者長年の研究の総決算というべき優れた労作である．多くの方々がこの本を手にし，典型的大陸衝突帯であるヒマラヤ形成の新しい考え方を知っていただきたい．

（在田一則）

博物館・ジオパークで地球を学ぼう！（26）
陸前高田市立博物館

ふるさとのたからは失われていない

陸前高田市立博物館　副主幹兼主任学芸員　**熊谷　賢**

博物館の沿革

陸前高田市立博物館（以下「博物館」.）は，1957年4月に博物館設置構想並びに準備が始まり，翌1958年6月に気仙川河口付近に所在した旧気仙町役場（陸前高田市は1955年に3町5村が合併）庁舎を一部改装し，非公式に公開を行いました．1959年1月には，岩手県第1号の登録博物館となり，総合博物館として公式な公開が始まり，その第一歩を印しました．この一歩は，東北地方における公立博物館としての第一歩でした．

その後，1973年に博物館・図書館などを同じ敷地内に建設する「社会教育団地構想」が策定され，それに基づき1979年７月に市街地に新築移転しました．以来，原始古代から現在に至るまでの生活様式の変遷，産業，文化等の流れを総合的，体系的に展示し，郷土・陸前高田の歴史と自然への知識と理解を深め，文化の創造と情操の育成に寄与することをねらいとし，市民とともに地域に根ざした博物館活動を展開し，地域住民が資料収集，調査研究，教育普及，展示に参画できる体制づくりを行っていました．

東日本大震災からの再興

2011年3月11日．あの大津波は，半世紀以上にわたって市民の協力により収集された陸前高田の自然・歴史・文化を伝える資料を集積した博物館と海と貝のミュージアムを丸ごとのみ込みました．館内には瓦礫と化したものが流入し，資料と瓦礫が混然一体となっていました．人的被害も大きく，博物館の職員は全員が犠牲となりました．生き残った学芸員は海と貝のミュージアムに勤務していた私一人だけでした．被災資料の救出活動は困難を極めましたが，被災資料を救出する作業は，県内の博物館，教育委員会に加え，自衛隊や国立科学博物館など多くの関係機関の協力を得て，3月下旬から6月中旬まで行いました．救出した資料は，海水の塩分によって錆やかびが発生し，劣化が進行するため，それらを取り除く「安定化処理」が必要となります．しかし，津波により被災した資料の安定化処理は，国際的にも未確立な部分が多く，試行錯誤が現在も続いています．当館は総合博物館であり，自然，人文など多岐にわたる素材からなる資料を収蔵し，それらがほぼすべて被災したため，各資料の特性にあった処理を行う必要があります．膨大な量の被災資料を目の前に途方に暮れそうになりましたが，岩手県立博物館や東京国立博物館をはじめ，北海道から九州まで全国の博物館，大学などの研究機関が，陸前高田のたからものを残そうと，手を差し伸べてくださいました．

しかし，被災資料の再生に向けた作業が進むにつれ，被害の大きさが徐々に明らかとなり，失望感に襲われるようになった頃，流失した資料の発見を知らせる市民からの電話連絡や，新しい博物館での展示に活用して欲しいと，市内産出化石や郷土人形をはじめとする民俗資料の寄贈の申し出が相次ぎ，その数は発災から5年で2000点を超えました．津波によって途切れたと思われた市民との絆は，失われてはおらず，むしろ新しい博物館の再建を望む絆としてより強固なものに感じられ，博物館再建の原動力となりました．

新陸前高田市立博物館の概要

2022年11月5日．壊滅的被害をもたらした東日本大震災発災から11年8ヶ月を経て，新しい陸前高田市立博物館が開館しました．当市の公共施設の復旧として最後となりました．新博物館は博物館と海と貝のミュージアムを統合し，豊かな自然・歴史・文化を，震災の記憶とともに伝える地域に根差した総合博物館としての再開でした．

建物は，鉄筋コンクリート造，一部鉄骨造の2階建てで，延床面積が2,800㎡，展示資料の総数は，約7,300点です．館内は，常設展示室，企画展示室，収蔵庫，貴重品収蔵庫，作業室，屋上は，復興した町の様子を一望できる展望デッキとなっており，乳幼児から高齢者の方々まで，幅広い世代に十分に配慮した施設として整備され，誰もが楽しく自然・歴史・文化について学べる博物館です．

受け継ぐ展示

新しい博物館の常設展示では，収蔵資料の99.9％が市民からの寄贈であること，展示資料の90％以上が被災し，全国の大学，博物館などの協力を得て再生したことなどを踏まえ，三陸の海を展示テーマの軸としました．全体ストーリーは「陸前高田の海・大地，そしてそこに生きる人々の力に出会う」．震災前の博物館と海と貝のミュージアムの展示内容を受け継ぎながら，震災後の資料再生への思いも伝えることを心掛けました．

そして，最も大事にしたのが，「海は楽しい，海はおもしろい」ところであるということを子供たちに伝えることでした．「大津波で海がこわい」，「海を見たくない」という声があるのも事実ですが，三陸の海は，縄文の昔から私たちに豊かな恵みを与え，さまざまな自然・歴史・文化を育んで来ました．その海を悪者にはしないという考えからです．

導入と発見の壁

展示室でまず来館者を出迎えるのは，震災直後に博物館の作業室に置かれた一枚の書置きを再現した導入展示です．「博物館資料を持ち去らないでください．高田の自然・歴史・文化を

写真左）被災直後の博物館．右）資料の捜索作業

写真左）ガレキの中のメッセージ．右）大地の成り立ち

復元する大事な宝です.」と書かれた書置きは，資料を残すことの意味を伝える博物館再生の象徴です．導入展示を過ぎると基本となる9つの展示をつなぐ「発見の壁」が見えます．発見の壁は，「感じ，考え，発見する」をコンセプトにした感覚に語りかける展示で，触れる岩石標本や，縄文時代の骨角製漁具やアクセサリーなどの骨角器，津波で止まった時計などの各展示を象徴する資料が展示されています．

陸前高田を知る展示

発見の壁がつなぐ，9つの展示のうち，最初の7つを紹介します．

①**『大地の成り立ち』** 陸前高田の大地は5億年の歴史があります．この5億年の歴史を気仙川の東側に分布する北上山地の基盤をなす前期古生代の氷上花崗岩，壺の沢変成岩とその大型レプリカをはじめとする岩石，気仙川の西側に分布する後期古生代（石炭紀・ペルム紀）の赤道直下の浅海で堆積した，礫岩，砂岩，泥岩，石灰岩，凝灰岩，熔岩などから産出したサンゴ，フズリナ，コケムシ，三葉虫，腕足類，二枚貝，頭足類などの化石とともに紹介しています．

また，1850年6月13日（嘉永3年5月4日）の明け方に，現在の陸前高田市気仙町丑沢にある長圓寺前の畑に落下した日本最大の隕石「気仙隕石」について，レプリカと実物破片，落下記録のある吉田家文書（岩手県指定有形文化財）レプリカで紹介しています

②**『奇跡の海　三陸』** 三陸の海は，その豊かさからノルウェー沖およびカナダ・ニューファンドランド島沖とともに世界三大漁場と呼ばれています．この豊かさの秘密は，暖流の黒潮と寒流の親潮が混じりあう海流条件だけでなく，海にせまる山や奥深い入り江などの多様な海岸地形と海底地形，沖合にある深海，地球上における位置といった独特な自然環境に由来します．このように多くの条件が奇跡的にそろっている三陸の海は「奇跡の海」と呼ばれ，多様な生きものたちを育んでいます．この豊かな海を支える陸前高田の山・川・海の生物の多様性を，美しい写真と豊富な剥製などの標本で伝えています．

③**『海を崇め　海に抗わず　海と生きる』** 陸前高田は豊かな恵みをもたらす「奇跡の海三陸」に面し，人々は縄文の昔から海の恵みを受けて生きてきました．豊かな海は時として津波を起こし，大きな災害が人々を襲うこともあります．しかし，人々はこの地で海の恵みを受け取りながら漁撈文化を育んできました．海とともに生きてきた伝統は，現在の沿岸漁業や地域文化につながり，陸前高田のたからとなっています．国史跡中沢浜貝塚をはじめ，水産日本のルーツと称される市内の縄文貝塚から出土した釣針，銛など300点を超す骨角器や2023年3月に国の重要有形民俗文化財に指定された「陸前高田の漁撈用具」をとおして豊かな恵みをもたらす海への感謝や畏れ，敬い，祈りを表す民俗を形づくった人々の生活を紹介しています．

④**『資料が語る陸前高田の歴史』** 1959年の開館以来，資料収集活動と市民からの資料寄贈により，当館の収蔵資料は，自然（地質・動物・植物），考古，歴史，民俗，美術など多岐にわたっています．その総数は約46万点に及び，資料はこれからも増え続けます．ここでは，当市の歴史や民俗を物語る上で欠くことの出来ない岩手県指定有形文化財旧吉田家住宅主屋，同吉田家文書，玉山金山，高田人形，日本一のオシラサマ，蕨手刀，墨書土器等の多様な資料を紹介しています．

⑤**『博物学の世界』**「岩手博物界の太陽」と呼ばれる当市小友町出身の鳥羽源藏．その業績は考古学，貝類学，昆虫学，植物学，地質学など多岐にわたります．昨年のＮＨＫ連続テレビ小説の主人公のモデルとなった植物学者・牧野富太郎が鳥羽に宛てた書簡，宮沢賢治との関りを示す化石，日本で初めて幼虫期の生態をあきらかにした昆虫，新種記載した貝など業績を示す資料とともに，後継者であり，陸前高田市立博物館を作り上げた千葉蘭児の業績も併せて紹介し，来館者を博物学の世界へ誘います．

⑥**『宿命とともに生きる』** 陸前高田を含む三陸は，過去に何度も津波の災害を受けてきました．ここでは，東日本大震災にはあえて触れず，明治三陸地震津波（1896年），昭和三陸地震津波（1933年），チリ地震津波（1960年）に焦点をあて，過去の津波から学ぶことの重要性を伝えるとともに，津波を正しく恐れ，どのようにして生命と生活を守っていくのかを考えていただく内容となっています．

⑦**『ふるさとのたからは失われていない』** 東日本大震災での博物館の被災状況，被災資料の救出作業，地質，考古，植物，昆虫，剥製，民俗，美術など多岐にわたる被災資料ごとの安定化処理の方法を，実際の被災資料と壁を埋め尽くす写真，パネルで解説するとともに，文化財レスキューの過程と全国からの支援の様子を紹介し，再生した被災資料をご覧いただきながら，資料を残すことの意義と文化財防災について紹介しています．合わせてエントランスでは被災資料の再生作業の様子を見学できるようになっています．

未来への約束

「ここには陸前高田の人々が守り伝えてきたモノがあります．モノには物語があります．物語には人々のココロがあります．モノと一緒にココロを守り伝えていくこと．それが博物館の未来への約束です.」常設展示室入口の壁面に掲げた言葉です．

1959年の開館以来，博物館が守り続けてきたことを未来に向けて守り続けていくことを，当館の再建に携わっていただいたすべての方々に約束します．

写真左）宿命とともに生きる．右）ふるさとのたからは失われていない．

info

陸前高田市立博物館
〒029-2205
岩手県陸前高田市高田町字並杉300番地1
電話　0192-54-4224

☆関東支部

お知らせ

2024年度関東支部総会・講演会開催のお知らせ（第２報）

関東支部では，下記のように支部総会および講演会をハイブリッド形式（会場＋Zoom会議）で開催いたします．

支部総会に先立って行われる講演会（共催：一般社団法人関東地質調査業協会）は，非会員の方も参加可能です（CPD1.5単位取得可）．能登半島地震の際の地形変化など，最新情報を得ることができます．ぜひ皆様お誘い合わせの上ご来臨くださいますようご案内申し上げます．総会および講演会の詳細，参加申込フォーム，議案書・予算案，議決権行使書フォームなどは4月上旬に支部Webサイトに掲載する予定です．また，総会を欠席される関東支部会員の方には議決権行使書フォームか下記の委任状送付方法でご提出をお願いします．

日時：2024年4月20日（土）14:00-16:45（13:30から講演会受付開始）

場所：北とぴあ（7階）第2研修室．JR京浜東北線王子駅北口徒歩2分；東京メトロ南北線王子駅5番出口直結；東京さくらトラム（都電荒川線）王子駅前徒歩5分．

＜プログラム＞

13:30　受付・入室開始（ハイブリッド形式；CPD1.5単位取得可）

14:00-15:30　**講演会「デジタル詳細地形データを用いた地表面変位計測で見る地震災害」**

共催：一般社団法人日本地質学会関東支部・一般社団法人関東地質調査業協会

講師：向山 栄氏（国際航業株式会社 公共コンサルタント事業部）

【講演要旨】2024年1月1日に発生した能登半島沖地震では，地殻変動などにより地形が大きく変化する現象を目の当たりにしました．今回の講演では，地震などのイベント前後の地形モデルを画像化して地表面の変位を面的かつ定量的に計測する技術を紹介します．

この手法は，精度の高い位置情報を持つデジタル地形モデルから作成した数値地形画像のパターンマッチングによってまず水平変位量を求め，さらに画素に与えられた標高値から求めた鉛直変位量と合成して，3次元の移動ベクトルを求めるものです．この手法によれば，地震時の断層変位や地すべりによる変位など，人工衛星の合成開口レーダを用いた画像解析では抽出しにくい比較的大きな変位量を計測することができます．

本講演では，2016年熊本地震や2024年能登半島地震などの際に，この数値地形画像解析で計測した興味深い地形変化の事例を紹介します．

15:30-15:40　質疑応答

15:40-15:50　休憩（講演会のみに参加の方はご退室）

15:50-16:45　**関東支部総会**

支部功労賞授与式

議長選出

議案審議　第1号議案　2023年度活動報告・決算報告

第2号議案　2024年度活動計画

第3号議案　2024年度予算案

第4号議案　幹事選挙結果報告

委任状送付方法：下記の３つの方法があります．

１．2024年度委任状フォーム：4月上旬に支部Webサイトに掲載（**4月17日（水）17時締切**）．

２．郵送またはFAX：下記にお送りください（**4月18日（木）必着**）．

〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F

日本地質学会事務局気付　関東支部事務局

FAX：03-5823-1156

３．E-mailによる送付の場合：関東支部のメールアドレス（kanto@geosociety.jp）へ下記の内容の委任状をご送付下さい（**4月19日（金）17時締切**）．

問い合わせ先：関東支部幹事長 加藤 潔（駒澤大学）

電話：090-1705-7516

Eメール：kiyoshi.katoh@gmail.com

＜関東支部総会委任状＞

2024 年 4 月 20 日（土）開催の日本地質学会関東支部総会に出席できませんので，当日一切の議決権を

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿君（又は，議長）に委任します（空欄の場合は議長とします）．

2024 年　　月　　日

住　　所：

会員氏名：

☆関東支部

報告

講演会　県の石―千葉の岩石・鉱物・化石　報告

日本地質学会は，全国47都道府県の特徴的な岩石・鉱物・化石について「県の石」として選定し，2016年5月10日（地質の日）に発表した．関東支部では県の石の講演会を，神奈川県（2022年3月5日），茨城県（2023年1月22日），埼玉県（2023年7月8日）と現地やオンラインで実施してきた．今回はその第4弾として，ハイブリッド方式で2024年1月14日（日）に千葉県立中央博物館講堂（千葉市）で実施した．

当日は現地42名，オンライン52名，合計94名の参加があった．CPD単位取得者（2.5単位）は32名．会員・非会員の割合は，現地参加は約2/3が非会員，オンライン参加は6割以上が会員であった．

講演の最初は岩石がテーマで，千葉県立中央博物館上席研究員の高橋直樹氏による「明治の近代化を支えた石材－房州石」であった．房州石は千葉県南部の鋸山を中心に採掘されていた石材で，江戸時代末期から明治時代にかけて需要が急増したこと，房総は首都圏に近く経済的に有利だったこと，材質が柔らかく火に強かったこと等の話があった．鋸山山頂付近の現在の奇妙な地形は採石の結果であり，山頂から麓の海岸までの運搬方法も紹介された．採掘は昭和60年で終了したが，近年石材による町おこしで盛り上がっていること等も報告された．

次の講演は鉱物がテーマで，国立科学博物館研究主幹門馬綱一氏による「天然ガスを含む鉱物－千葉石」であった．2011年に新種として報告されたこと，シリカに加え天然ガスを主成分とする特殊な鉱物であること，千葉石に伴ってもう一種似た構造を持つ房総石が産出すること等が紹介された．特に難しい鉱物の結晶構造について，イラストを用いてわかりやすく解説していた．鉱物に含まれる天然ガスの起源にも話が及び，メタンを含む冷湧水から形成したと考えられるとのことである．

最後の講演は化石がテーマで，千葉県立中央博物館教育普及課長伊左治愼司氏による「下総層群木下層の堆積環境と“木下貝層”の貝化石について」．木下層は千葉県中部から北部を中心に分布する下総層群上部の地層であること，約12万年前に古東京湾という内湾に堆積した地層であること，木下層の中で貝化石が多く含まれる部分を“木下貝層”と呼ぶこと，印西市で見られる貝化石が密集した露頭は1965年に県の天然記念物に，2002年に国の天然記念物に指定されていること等が紹介された．古くから研究されていることや手賀沼周辺で発掘されたザトウクジラとともに産出した貝化石についても紹介された．

事後アンケートは回答が14名と少なかったが，講演内容については全員が5段階評価で4以上，運営方法は全員が評価3以上であった．良かった点としては，「話がわかりやすく面白かった．」「内容が興味深かった．」等の意見が代表的なものであった．改善を要する点は，「マイクの音が聞き取りにくい」等音声に関することが大半だった．関東支部に対する要望としては，「他の関東圏の講演も聞いてみたい．」「チバニアン，関東地震の活断層と想定される津波や地盤災害．」等であった．

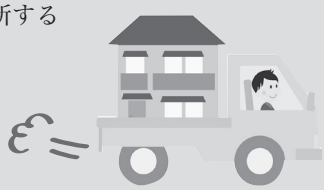
関東支部では「県の石講演会」を今後も続ける予定である．皆様の参加をお待ちしています．

（日本地質学会関東支部幹事　**米澤正弘**）

左から，高橋直樹氏，門馬綱一氏，伊左治愼司氏

事務局からのお願い：会員情報に変更があった場合は，，，

自宅や勤務先等登録内容にご変更があった場合は，速やかに学会事務局までご連絡をお願い致します．
毎月の会誌や大切な郵便物が届かなくなってしまいます．情報の変更は，学会ホームページ「会員ページ」にログイン（ID：会員番号）していただければ，ご自身で登録内容を更新することも可能です．
ご協力をよろしくお願い致します．



問い合わせ：日本地質学会事務局　メール：main@geosociety.jp
電話 03-5823-1150　FAX 03-5823-1156

学　会　記　事

2023年度第5回執行理事会議事録

日　程：2023年11月11日（土）13:00－16:30
【WEB会議】
出　席：岡田　誠，杉田律子，星　博幸，中澤　努，緒方信一，内尾（保坂）優子，内野隆之，尾上哲治，加藤猛士，狩野彰宏，亀高正男，小宮剛，高嶋礼詩，辻森　樹，松田達生，山口飛鳥
監　事：岩部良子
欠　席：坂口有人，矢部　淳，山本正司（監事）
事務局　澤木
＊定足数（過半数：10）に対し，執行理事16名の出席
＊前回23-4議事録案は，本執行理事会にて承認された．

報告事項

1. 全体的報告
・経済産業省資源エネルギー庁より，総合資源エネルギー調査会臨時委員の推薦依頼があり，会員1名を推薦した．
2. 運営財政部会（亀高・加藤）
1）総務委員会
＜共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等＞
・日本ゼオライト学会より，第39回ゼオライト研究発表会（11/30－12/1；於タワーホール堀留（東京都江戸川区））への協賛依頼があり，承諾した．
・核のゴミ地層処分問題の全国声明に取り組む世話人会より，11/1付声明文が送付された（声明　世界最大級の変動帯の日本に，地層処分の適地はないー現在の地層処分計画を中止し，開かれた検討機関の設置をー）
・石油技術協会 令和5年度秋季講演会（地質学会協賛）の協賛御礼があった（11/8開催，参加者231名）．
＜会員＞
1. 今月の入会者（正会員：2名）
一般会員（2名）小松原健一，飯田和也
2. 今月の退会者（正会員：1名）
一般会員（1名）新保陽輔
3. 今月の逝去者（正会員：1名）
シニア会員（1名）古儀君男（逝去日：2023年11月5日）
4. 2023年10月末会員数
賛助：30，名誉：37，ジュニア：3，正会員：3214［うち一般2154，シニア847，学生213］，合計3284（昨年比-23）
＜会計＞
特になし
＜その他＞
・定款・規則類の整理について：事業部会に属する委員会規則の整備状況が報告された．【事業部会に属する委員会】（整備済）総務委員会，行事委員会，専門部会連絡委員会，国際交流委員会，地質技術者教育委員会/（未整備）広報委員会，地質標準化委員会，地質学雑誌編集委員会，Island Arc 編集委員会，企画出版委員会，地学教育委員会，生涯教育委員会
・選挙システム：代議員選挙の実施に伴い，一部不具合があったが（他薦届け後に自薦届けを提出した際に他薦届けが消失した），対応し改善した．
・下敷き増刷：校正中．前版で校正漏れの箇所などを中心に確認中．
3. 広報部会（内尾・松田）
1）広報委員会（内尾）
・学会HPについて：現在，創文印刷（創文ドットコム）に打診中．安全な運用，会員活用，若手会員コンテンツ，一般向けコンテンツの充実をコンセプトとする．
・第15回惑星地球フォトコンテストの募集を開始した（締切1月31日）．
4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）
1）行事委員会（高嶋・山口）
（1）2024山形大会
・巡検案内書の執筆依頼はすでに山崎　誠編集委員長より行われた．
・巡検コース案（→審議事項へ）
・12月1日に会場下見予定．会場予約は1年前から．
（2）2025熊本大会
LOCは，運営業者として（株）アカデミックブレインズを希望している．LOCは，早めに打ち合わせ，準備を開始したい意向であるが，契約後は毎月の委託料が発生するため，早くても契約開始は，2025年2or3月から．
（3）2026年学術大会：開催校をそろそろ打診する時期．中部支部に連絡して検討を依頼する．
（4）JPGU共催セッション：共催セッションとして追加2件を加えて計14件（人間環境と災害リスク，堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動，活断層と古地震，地磁気・古地磁気・岩石磁気，日本列島および東アジアの地質と構造発達史，年代層序単元境界の研究最前線，Oceanic and Continental Subduction Processes: petrologic and geochemical perspective，変形岩・変成岩とテクトニクス，地殻表層の変動・発達と地球年代学／熱年代学の応用，岩石・鉱物・資源/地球史解読：冥王代から現代まで，Evolution and variability of the Asian Monsoon and Indo-Pacific climate during the Cenozoic Era，ジオパーク，地質学のいま）の応募があった．
（5）ショートコース（山口）
・第9回ショートコース「応力逆解析法」を実施した（10/22開催　参加者50名）．参加者アンケートによると，参加者の満足度は高く，特に20代の学生，社会人の評価が高かった．企業のコンサルにとっても実務的な講習であり反響があった．
・今後のテーマとして，放射年代測定（再），微化石による年代決定，古地磁気，海洋資源，極域地質などがある．
・アーカイブ視聴について：参加申込者以外にも有料で講義内容のアーカイブが視聴できれば良いとの意見があった．有料での限定公開について前向きに検討を進める．講師の事前了解や著作権，有料配信のツールなど（YouTubeは原則無料公開．有料公開不可）を確認する．Zoomのクラウドレコーディングを活用するのが簡便で使いやすいのではないか．
2）専門部会連絡委員会（尾上）
特になし
3）国際交流委員会（辻森・岡田）
特になし
4）地質標準化委員会（内野）
特になし
5. 編集出版部会（狩野・小宮）
1）地質学雑誌編集委員会（小宮）
（1）編集状況報告（2023年11月9日現在）
・2023年投稿論文：52（昨年比-12）［内訳］総説1（和文1），論説24（和文24），ノート3（和文3），レター6（和文6），報告6（和文4，英文2），フォト2（和文2），討論1（和文1），巡検案内書8
査読中：27，受理済み：1，取下げ：1
・129巻：公開済み47（586ページ），入稿・校正中：6，，
・J-STAGE Dataユーザ会（11/30，zoom）があり，利用機関の事例紹介として，小宮委員長が地質学雑誌でのJ-STAGE Dataの活用状況などについて，話題提供を行う．
（2）その他
特になし．
2）Island Arc編集委員会（狩野）
（1）編集状況報告
31巻，発行原著論文29編（伸びは平年並み），投稿数50（投稿数減），2023年の受理は7割程度，IF:0.78（2023予定）．
（2）その他
特になし．
3）企画出版委員会（松田）
特になし．
6. 社会貢献部会（坂口・矢部・内野）
1）地学教育委員会（坂口）
特になし．
2）地質技術者教育委員会（坂口）
11月7日に委員会を開催し，下記について検討をおこなった．
（1）地質系業界説明会（9/18 京都大学，9/22 オンライン）
・簡易の開催報告を学会HPに掲載した．対面の延べ訪問数217で，当日参加者が多かった．動線が良く場所に恵まれた．オンラインは延べ109で少し少なかった．アンケート結果からは，学生の満足度は概ね高かったが，学生の個人情報の企業への周知範囲について考慮すべきとの意見があった．
（2）キャリアビジョン誌
・関連企業2000社（地質コンサルタント1200社，建設コンサルタント800社，資源系20

社）に掲載案内パンフレット配布済み．申込締切：12/15（金），協賛費3万円/1掲載地区，賛助会員は1掲載地区分無料．

(3) 第4回JABEEシンポジウムは，3/3（日）オンライン開催を予定．テーマ，講演者等を選定中．

(4) 若手人材動向調査は、8月10日から開始して11月末に締切。全国32校が回答．解析中．

3）生涯教育委員会（矢部）

・地質学会News誌の「博物館・ジオパークで地球を学ぼう」について，2024年度を担当する東北・北海道支部の各機関・担当者への打診を進めている．

4）地震火山地質こどもサマースクール（星）

・本年8月に開催された第22回サマスク（神奈川県平塚市とその周辺）の詳細な実施報告記事がニュース誌10月号に掲載された．執筆者は野崎 篤会員（平塚市博）．

5）地質の日（矢部）

特になし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1）利益相反マネージメント委員会（中澤）

特になし．

2）若手育成事業検討WG（内野）

特になし．

3）表彰制度検討WG（中澤）

特になし．

8. 理事会の下に設置される委員会

1）ジオパーク支援委員会（矢部）

特になし．

2）地学オリンピック支援委員会（坂口）

特になし．

3）支部長連絡会議（杉田）

特になし．

4）地質災害委員会（松田）

・関東支部との共催で12/2（土）に関東地震100年関連行事として震生湖巡検を実施予定．ホームページに案内を掲載済み．講演会と同様に冒頭で挨拶する．

5）名誉会員推薦委員会（星）

・2024年度名誉会員推薦委員会委員の選定について，階層別委員について 4 名を選定し内諾を得た．理事会選出委員についても検討を進める．

6）各賞選考委員会（中澤）

特になし．

7）ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）

特になし．

8）連携事業委員会（中澤）

特になし．

9）法務委員会（中澤）

特になし．

10）若手活動運営委員会（星）

特になし．

9. 研究委員会

1）南極地質研究委員会（委員長　大和田正明）

特になし．

2）法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）

FGG-IFG会　合（The Ceological Society Forensic Geology Group and IUGS-IFG, 2023/12/4-5, 於ロンドン）に杉田副会長が参加し，本委員会の紹介等発表予定（ポスター）．委員会レベルでの国際交流も行っていきたい．

10. その他

特になし．

審議事項

1. 地質学雑誌編集委員の追加（小宮）

文化地質分野の投稿原稿増加に伴い，大友幸子会員（分野：文化地質）に加わっていただく．任期は，他の委員と合わせて2024年総会まで．

2. アルカリ長石の用語使用について（星）

アルカリ長石の用語使用に関する論文が最近複数の和文誌に公開されたことに伴い，高校教科書における用法も検討が始まりつつある．現行教科書は全て「カリ長石」となっている．JISでは長石（斜長石とアルカリ長石）となっており，カリ長石の表記はない．IMA（国際鉱物学連合）で長石の区分も確認の上，地質学会として案を提示したい．今後継続して検討する．

3. 名誉会員の制度のあり方と選考プロセスに関する申し合わせの改正について（星）

以下の内容について議論した．議論の内容を踏まえ，理事会に改正案を提示する．

(1) 推薦プール制度の廃止を提案する（本年４月理事会で予告の通り）．

(2) 名誉会員の資格について整理し、修正を提案する．

(3) 名誉会員の人数については，全会員数に占める名誉会員の割合は1%程度，原則選出3名以下/年とする現状の申し合わせは妥当．今後も数値的な歯止めは必要．

(4) 申し合わせの名称も簡潔に変更する．

4. 第19回国際熱年代会議（Thermo2025；日本地質学会共催）からの協力依頼について（星）

2025年9月に金沢で開催されるThermo2025と地質学会熊本大会の日程が重複しないよう配慮を要請されている。Thermoの主要スケジュールに配慮して日程調整を図りたいが、全日程を避けて熊本大会を設定することは難しい.，Thermo参加者の熊本大会への参加（特に巡検）は可能だが，案内書の英語化や食事対応（ビーガン等）は難しい．なお、2024年山形大会で広報用ブースを提供して欲しい旨の依頼があり、対応する．

5. 2024年山形大会巡検コース案（高嶋）

類似コースの内容，日程の見直し，最小催行人数等などLOCに再検討をいただき，プレ，ポスト日程を含め計8コース（アウトリーチ巡検1コースを含む）を承認した．

6. 2025熊本大会の日程について

Thermo開催日程（2025/9/11プレ，9/14-20）との重複を避けるため，（案1）9/13-15,（案2）9/6-7を中心とした3日間，としてThermo側に打診し，熊本LOCとも調整を行う．ただし（案2）は相当に暑いため，大会・巡検実施は大変厳しい条件となる．

7. 地球・資源分野JABEE委員会　次年度の役員への推薦

地球・資源分野JABEE委員会から，次期（2024，2025年度）の運営委員（2名以上）および監事（1名以内）の推薦依頼があった．候補者として，地質学会からの現委員4名と監事1名を継続して推薦することを承認した．

8. 理事会審議事項の確認

①2023 年度事業実績概要（案）

②2024 年度事業計画骨子（案）

③2024 年度総会の日程

④研究奨励金規則一部改正（使用期間の延長可）について（内野）

⑤2024 年度名誉会員推薦委員会委員の選出（星）

⑥名誉会員選出の申し合わせの改定

⑦各種委員会の委員追加，交代等の承認（地質学雑誌編集委員会）

監事コメント

（岩部監事）

・研修会の録画データ等の公開については様々な事例がある．情報漏洩等のリスクに留意しつつも，ぜひとも発展的に進めて頂きたい．

・地質系業界説明会（企業ブース）における会員や個人の情報の取扱いについては，公開行事の性質上，意図せずも情報漏洩につながるリスクがあるので、学会，出展者含めて十分に留意されたい．

以上

2023年12月9日

一般社団法人日本地質学会

会長（代表理事）岡田　誠

署名人　執行理事　中澤　努

2023年度第6回執行理事会議事録

日　程：2023年12月9日（土）10:00-12:15
【WEB会議】

出　席：岡田　誠・杉田律子・星　博幸・中澤　努・緒方信一・保坂（内尾）優子・内野隆之・加藤猛士・亀高正男・小宮　剛・坂口有人・髙嶋礼詩・辻森　樹・松田達生・矢部淳・山口飛鳥

監　事：岩部良子

欠　席：尾上哲治・狩野彰宏・山本正司（監事）

事務局　澤木

＊定足数（過半数：10）に対し，執行理事16名の出席

＊前回23-5議事録の確認.

報告事項

1. 全体的報告

特になし.

2. 運営財政部会（亀高・加藤）

1）総務委員会

＜共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等＞

・令和5年度技術者倫理講習会（主催：日本応用地質学会，20241/16，オンライン）への後援依頼があり，承諾した.

・原子力総合シンポジウム2023（主催：学術会議，20241/22，日本学術会議行動＆オンライン）への協力依頼があり，後援として承諾した.

・地盤技術フォーラム2024（主催：産経新聞，2024/9/18-20，東京ビックサイト）への協賛依頼があり，承諾した.

・科学教育研究協議会第69回全国研究大会（埼玉大会）（8/4-8/6，埼玉県立与野高等学校，地質学会後援）の実施報告があった．大会参加者300名.

・地学団体研究会より「国立大学法人法の一部を改正する法律案」に反対する声明（11/22付）の送付があった.

＜会員＞

1．今月の入会者：1名

正会員学生（３年パック：1名）堀江正陽（ほりえ　まさあき）

2．今月の退会者：２名

正会員一般（2名）

藤原弘士，佐藤李咲

3．今月の逝去者：4名

名誉会員（3名）

松田時彦（逝去日：2023年10月17日），

志岐常正（逝去日：〃年11月13日）

水野篤行（逝去日：〃年11月20日）

正会員シニア（1名）

香村一夫（逝去日：2023年4月17日）

4．2023年11月末会員数

賛助：31，名誉：34，ジュニア会員：3，正会員：3212［一般2154，シニア 845，学生会員213］合計3280（昨年比-26）

5．前回（9/9）理事会以降の逝去者氏名（6名）

名誉会員（4名）坂巻幸雄（逝去日：2023年8月23日），松田時彦（逝去日：〃年10月17日），志岐常正（逝去日：〃年11月13日），水野篤行（逝去日：〃年11月20日）

正会員シニア（2名）香村一夫（逝去日：2023年4月17日），古儀君男（逝去日：〃年11月5日）

6．年度末退会＆除籍予定者【資料回覧】

①2023年度末退会予定者（35名）

②2023年度末除籍予定者（92名）

会員数の減少率が例年より緩やかになっている．学生会員の増加なども影響していると考えられるが，現在年度末除籍予定者が保留中であるので，今後の状況を見守りたい.

＜会計＞

特になし.

＜その他＞

特になし.

3. 広報部会（内尾・松田）

1）広報委員会（内尾）

学会HPリニューアルについて，年内に業者との打ち合わせを開始する.

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1）行事委員会（高嶋・山口）

・2024山形大会準備状況ほか【報告資料01】12月1日山形大会の会場を視察した．会場の都合上，企業展示とポスター会場は隣接できないが，会場内の動線に配慮した配置を検討している．業界説明会のスペースは，参加企業の増加が見込まれるため，さらなる拡張をLOCに依頼する．山形大学の後援申請が承認された．山形コンベンションへ助成金を申請中（巡検バス代の補助ほか）.

・京都大会巡検案内書：査読後返却中のコース2件，未投稿の1コースについて，督促等対応中.

2）専門部会連絡委員会（尾上）

特になし.

3）国際交流委員会（辻森・岡田）

特になし.

4）地質標準化委員会（内野）

・11月末に産総研でJISの原案作成委員会が行われ，修正事項の確認を行った．詳細な議論は今後新設されるワーキンググループで行う.

5. 編集出版部会（狩野・小宮）

1）地質学雑誌編集委員会（小宮）

（1）編集状況報告（2023年12月5日現在）

・2023年投稿論文：54（昨年比-11）［内訳］総説1（和文1），論説25（和文24），ノート3（和文3），レター７（和文7），報告6（和文4，英文2），フォト2（和文2），討論1（和文1），巡検案内書8

査読中：21，受理済み：2，取下げ：1

・129巻：公開済み49（613ページ），入稿・校正中：5

・投稿数は昨年よりやや少ないものの（-10程度），公開論文は昨年より150ページほど増加する見込

2）Island Arc編集委員会（狩野）

（1）編集状況報告

（2）2023年12月末で編集委員長任期（4年）満了となる．次期についても狩野，辻森両名の再任を理事会へ上程する．（理事会審議事項へ）

3）企画出版委員会（松田）

特になし.

6. 社会貢献部会（坂口・矢部・内野）

1）地学教育委員会（坂口）

特になし.

2）地質技術者教育委員会（坂口）

特になし.

3）生涯教育委員会（矢部）

特になし.

4）地震火山地質こどもサマースクール（星）

特になし.

5）地質の日（矢部）

特になし.

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1）利益相反マネージメント委員会（中澤）

特になし.

2）若手育成事業検討WG（内野）

特になし.

3）表彰制度検討WG（中澤）

特になし.

8. 理事会の下に設置される委員会

1）ジオパーク支援委員会（矢部）

特になし.

2）地学オリンピック支援委員会（坂口）

特になし.

3）支部長連絡会議（杉田）

特になし.

4）地質災害委員会（松田）

特になし.

5）名誉会員推薦委員会（星）

特になし.

6）各賞選考委員会（中澤）

・2024年度各賞候補者募集を締切り，功績賞1件，都城秋穂賞2件，H. E. ナウマン賞1件，小澤儀明賞．柵山雅則賞2件，の推薦に対する選考検討委員会の設置を執行理事会に依頼した．（→審議事項へ）

7）ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）

特になし.

8）連携事業委員会（中澤）

特になし.

9）法務委員会（中澤）

特になし.

10）若手活動運営委員会（星）

特になし.

9. 研究委員会

1）南極地質研究委員会（委員長　大和田正明）

特になし.

2）法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）

特になし.

10. その他

・各賞推薦時に提出する候補者の業績について，被引用指標は，Web of Scieneceでなく Google Scholarとする方が収集し易いとの意見が有った.

審議事項

1. 各賞選考検討委員の選出について

選考検討委員会メンバーについて，前，現会長，執行理事会が推薦する8名程度の委員の推薦があり，承諾された．順次執行理事会より各候補者へ打診を行う.

2. 2025熊本大会の日程について（高嶋）

Thermo Japan（地質学会共催）からの依頼を受けて検討した結果，当初案の2025年9月14日（日）～16日（火）がLOCとして最も都合が良い．代替案は9月5日（金）～8日（月）だが、この場合は鉱物科学会や地球化

学会との調整も必要で，巡検時の暑さも注意が必要．そのため会期は2025年9月14日（日）～16日（火）とし，LOC，Thermo Japanと調整する．

3. 各賞選考委員会の「選考過程」の理事会への報告事項について

標記について検討した．具体的な理事会への報告内容は次の通り．

・選考過程における「会議の開催方法」「議論の進め方」「会議の開催日時，委員長名，出席者数」を理事会へ報告する（選考後2年間は委員名を公表しない）．
・選考結果については，これまで同様「受賞候補者名」，「対象研究テーマまたは対象論文」，「推薦理由」を報告する．

4. 選挙開票立会人の選出

選挙開票立会人（正副会長の意向調査および理事選挙）2名の候補を選出した．候補者へ打診する．

5. カリ長石・アルカリ長石の件について

参考意見として，学会内で議論された複数の意見を文科省側に伝える．

6. 理事会資料の確認

理事会報告，審議事項，及び会議資料の確認を行った．

監事コメント

（岩部監事）各賞選考委員会の「選考過程」の理事会への報告事項について丁寧に検討いただいた。各賞選考は地質学会の重要な活動なので、今後も必要に応じて検討を進めていって欲しい。

以上

2024年1月17日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田　誠
署名人　執行理事　中澤　努

2023年度第2回理事会議事録

日　時：2023年12月9日（土）14:00～16：05
【WEB会議形式】

出席役員：出席理事39名，出席監事2名

・会長1名：岡田　誠
・副会長2名：杉田律子・星　博幸
・常務理事1名：中澤　努
・副常務理事1名：緒方信一
・執行理事11名：保坂（内尾）優子・内野隆之・尾上哲治・加藤猛士・亀高正男・小宮剛・坂口有人・髙嶋礼詩・松田達生・矢部淳・山口飛鳥
・理事会議長1名：小松原純子
・理事会副議長1名：大橋聖和
・理事21名（議長・副議長を除く）：青矢睦月・芦　寿一郎・天野一男・磯崎行雄・大友幸子・笠間友博・神谷奈々・亀田　純・本郷（川村）紀子・桑野太輔・斎藤　眞・佐々木和彦・沢田　健・下岡和也・高野修・野田　篤・細矢卓志・保柳康一・三田村宗樹・山路　敦・山本啓司
・監事2名：岩部良子・山本正司

事務局1名：澤木寿子

欠席役員：理事（11名）狩野彰宏，北村有迅，清川昌一，黒柳あずみ，菅沼悠介，辻森　樹，西　弘嗣，堀利栄，松田博貴，道林克禎，矢島道子

大橋聖和副議長が，前半の議事を担当した．

・審議開始に際し，本日の書記として佐々木和彦理事，斎藤　眞理事を指名した．
・成立要件：理事総数50名の過半数25名本日の出席者39名で本理事会は成立．
・議決：出席者の過半数20名

報告事項

1. 執行理事会報告

中澤常務理事より，本年9月以降の執行理事会議事録に基づいて説明が行われた（第19 回国際熱年代会議の共催，巡検案内書ワーキンググループの設置，干渉色図表・偏光顕微鏡による鉱物鑑定表の下敷きの増刷，地質災害委員会と関東支部との共催による「関東地震100年関連行事」，JpGU での地質学会共催セッション）．

2. 理事，委員会，研究委員会報告

1）総務委員会（亀高理事）

・会員動静（2023 年11月末の会員数）と2023年度末での退会予定者，除籍予定者についての報告があった．
・逝去会員（6 名）の報告があり，黙祷を行った．
・岡田会長より過去数年の会員数の変化がグラフをもとに説明された．総会員数は確実に減少しているが，特に若手会員の増減は，コロナ時期を経た今後に注目する必要があることの説明があった．
・オンライン選挙システムにおいて不具合があれば事務局に連絡して欲しい旨の依頼があった．

2）行事委員会（山口理事，高嶋理事）

・学術大会：高嶋理事より，2023京都大会の結果についての概説があった．続いて2024年山形大会の日程（2024年9月8日～10日），会場案などについて説明があり，2025年は熊本大会となることの報告があった．
・ショートコース：山口理事より第9回（10月22日）の実施報告があり，今後は2024年2月，4月，6月頃，10月頃に開催する予定であるとの説明があった．
・学生優秀発表賞：山口理事より，京都大会における学生優秀発表賞の採点・評価基準の説明があった．今年の反省を踏まえ，採点方法の一部見直しが検討されており，変更試案のたたき台が資料で提示された．また，受賞者の大学で本件の紹介があった例があり，地質学会のプレゼンス向上となるとの報告があった．

3）地質学雑誌編集委員会（小宮理事）

地質学雑誌の投稿，掲載状況が報告された．投稿数は昨年よりやや少ないものの，公開論文は昨年より150ページほど増加する見込み．現状大きな課題はないとの説明であった．

4）Island Arc編集委員会（辻森理事）

代理として小宮理事より，編集状況とインパクトファクターが2022年度は1.5であるとの報告があり，今後特集号の企画を期待しているとの説明があった．

5）地質技術者教育委員会（坂口理事）

・地球・資源分野JABEE委員会：同委員会への地質学会から役員の推薦は全員留任する申請を行うとの報告があった．
・地質系業界説明会：昨年よりも盛況であり，本企画を契機に賛助会員が3社増加した．今後課題を整理して山形大会に臨むとの説明があった．
・地質系若手人材動向調査：32大学から回答があり，これから動向分析と報告書の作成を行うとの報告があった．

6）若手育成事業検討WG（内野理事）

2024年度奨励金について1月より新たな募集を開始したいので，審議事項とするとの説明があった．

7）各賞選考委員会（三田村理事）

2024年度学会各賞の応募状況（12月1日締切）の報告があった．内訳は以下のとおりである．功績賞1件，都城秋穂賞2件，H. E. ナウマン賞1件，小澤儀明賞．柵山雅則賞2件，論文賞　3件，小藤文次郎賞　4件，地質学雑誌特別賞　2件，研究奨励賞　6件，フィールドワーク賞　1件，学会表彰　1件．推薦数23件．学会賞の推薦はなし．

8）選挙管理委員会（委員長：金澤直人会員）

委員長代理として中澤常務理事より，2024年度代議員選挙は全国区，地方支部区とも全員無投票当選であったとの報告がり，会長・副会長の意向調査はWEB投票にて実施するとの説明があった．

9）若手活動運営委員会（神谷理事，桑野理事）

・学術大会での学生・若手のための交流会：神谷理事より，京都大会おける実績が報告され，山形大会前夜に開催予定でLOCと調整しているとの説明があった．
・地質業界オンライン交流会：桑野理事より，2024年2月に開催するとの報告があった．その際，企業関係者だけではなく公務員，学芸員（ジオパーク含む）なども加えたいとの説明があった．

10分間の休憩をはさみ，以後は小松原純子議長が議事を担当した．

審議事項

1. 2024 年度総会の日程について（中澤常務理事）

2024年度の定時総会を2024年6月8日（土）に開催したいとの提案があり，審議の上承認された．

2. 2023 年度事業実績概要（案）について（岡

田会長）

資料に基づき，2023年度の現段階における事業実績について，「学術大会」「学術研究活動」「出版活動」「地質災害対応」「広報・普及活動」「社会貢献」「地学教育」「国際連携」「会員サービス・学会運営」の観点から説明があり，審議の上承認された．

なお，中澤常務理事より，2023年度末までの事業実績を加え，2024年4月13日開催の理事会で審議する予定であるとの補足説明があった．

3. 2024 年度事業計画骨子（案）について（岡田会長）

資料に基づき，2024年度の現段階における事業計画骨子について，「学術大会」「学術研究活動」「出版活動」「地質災害対応」「広報・普及活動」「社会貢献」「地学教育」「国際連携」「会員サービス・学会運営」の観点から説明があり，審議の上承認された．

なお，中澤常務理事より，2024年4月13日開催の理事会で2024年度事業計画を審議する予定であるとの補足説明があった．

4. 研究奨励金規則一部改正について（内野理事）

資料に基づき，やむを得ない事由で研究を中断せざるを得ないときには，執行理事会に延長願いを提出し承認を受けることで，研究奨励金の使用期間を最大2 年間延長することができるようにすることを，研究奨励規則第10条として追加する規則改正の提案があり，審議の上承認された．

5. 2024 年度名誉会員推薦委員会委員の選出について（星副会長）

資料に基づき，2024年度名誉会員推薦委員会委員として，執行理事会より階層別代表委員4名を選出したとの説明があった．続いて，理事会代表委員1名の推薦があった．上記2件について審議の上いずれも承認された．

6. 名誉会員推薦申し合わせ事項の改正について（星副会長）

資料に基づき，2013年5月に理事会が制定した「日本地質学会名誉会員の制度のあり方と選考プロセスに関する申し合わせ」のうち，推薦プール制の削除と再推薦を妨げないことの追記，「名誉会員の資格」の項目名を「名誉会員の推薦」と修正し，内容も整理，修正する提案があった．これらは，昨年の名誉会員推薦において課題として抽出され同委員会での検討を経て，2023年6月の理事会で概要説明がなされたものである．また申し合わせ事項の名称を，簡潔に「日本地質学会名誉会員の選考に関する申し合わせ」と変更することも併せて提案された．審議の上いずれも承認された．

7. 各種委員会の委員追加・委員再任について（中澤常務理事）

資料に基づき，地質学雑誌編集委員会に文化地質分野の委員として大友幸子会員（山形大学）を追加することとIsland Arc編集委員会の編集委員長として狩野彰宏会員（東京大学）・辻森 樹会員（東北大学）を再任することの提案がそれぞれあった．審議の上いずれも承認された．

8. 外部監事候補者の推薦について（中澤常務理事）

資料に基づき，選挙規則第5条に定める外部監事の候補者について，現監事の山本正司氏（司法書士山本正司事務所）を再度推薦することが提案され，審議の上承認された．

監事報告

（岩部監事）2023年度は学会として様々な改革を行っており，若手会員の増加などその成果は今後明らかになる．成果のチェックを行ってさらに積極的な改革を進めてほしい．

（山本監事）2023年度の京都大会では，対面でのポスターセッションや懇親会開催など，感染症蔓延以前の内容に戻ったことは喜ばしいことである．2024年度の山形大会の成功と盛り上がりを期待している．

以上，この議事録が正確であることを証するため，議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する．

2023年12月22日
理事：議長　小松原純子
理事：副議長　大橋聖和
代表理事：会長　岡田　誠
理事：副会長　杉田律子
理事：副会長　星　博幸
監事：山本正司
監事：岩部良子
理事：出席理事名（省略）

表紙紹介

第14回惑星地球フォトコンテスト：ジオパーク賞
個性豊かな、まぁ～るい畑

写真：**高場智博**（長崎県）

撮影場所：長崎県　五島列島福江島の三井楽半島

撮影者より：五島列島福江島とその周辺には，玄武岩質溶岩からなる福江火山群が分布しています．粘り気が少ない玄武岩質溶岩では，平らな溶岩台地となります．畑を作る際に角度を稼ぐ必要があまりないために，大きな畑となりました．この畑，その昔は真ん中に杭を打ち，牛によって耕していたそうです．畑の周りにはツバキの木を植えて防風林にも．福江島の人の暮らしと大地の関わりを示す場所です．

審査委員長講評：五島列島ジオパークは2022年1月に認定されたばかりのジオパークで，このジオパークを撮影した多くの作品が集まりました．写真を見ただけではピーンときませんが，解説を読むと丸い畑も納得できます．地上からでは撮影できないドローンならではの作品となっています．（審査委員長　白尾元理）

（金融機関用）　　令和　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日（払込日）	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

お届け印（捨印）ゆうちょ銀行を除く

ゆうちょ銀行以外の銀行

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	
（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。				金融機関お届け印

ゆうちょ銀行

（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	ゆうちょ銀行お届け印

種目コード	契約種別コード	記号（6桁目がある場合は※欄にご記入下さい）	番号（右詰めでご記入ください。）
1 6 6	3 0	1　　0 ※	

払込先口座番号	00110－5－58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	一般社団法人 日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード 1847600 0	顧客コード 000000	

－預金口座振替規定－　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄

（不備返却事由）
1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違
2. 記載事項等相違
　店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義
4. その他（　　）

備考

検印	印鑑照合	受付印	

取扱店日時印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

不備返却先
SMBCファイナンスサービス㈱
決済ビジネス業務センター　口座振替依頼書課
〒105-8625 東京都港区新橋1-8-4　SMBC新橋ビル

裏面のりしろ①

キリトリ線

のりしろ①

84円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内
一般社団法人 日本地質学会
御中

オリ線

住所
氏名

オリ線

のりしろ③

のりしろ②

キリトリ線

裏面のりしろ②

裏面のりしろ③

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください．
入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．また，初年度の会費は申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください．会員としての正式登録は，入会承認後，初年度会費の入金を確認した上で行い，News誌の送付(4月号から)を開始いたします．

申込書郵送先：101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　一般社団法人日本地質学会
学会費送金先：郵便振替口座　00140-8-28067　一般社団法人日本地質学会
ゆうちょ銀行　〇一九(ゼロイチキュウ)店／当座 0028067 ／一般社団法人日本地質学会 ｼﾔ)ﾆﾎﾝﾁｼﾂｶﾞｯｶｲ
会費年額：正会員(一般会員・シニア会員) 12,000円　※1
正会員(学生会員)5,000円/年、2年パック会費額:8000円、3年パック会費額:9000円)　※2
ジュニア会員　0円(年会費不要)　※3

※1:シニア会員は，入会年度の4月1日時点で65歳以上のかたを対象とします(4/2以降に65歳になる方は次年度からシニア会員となります)．
※2:学生会員は，次の2点を守って手続きして下さい．①学生証の写しを提出すること．②パック制会費を希望の場合は一括納入すること．
※3:ジュニア会員は，正会員の権利は有しません．学術大会での発表はジュニアセッションに限定します．

『学生会員』入会希望者

学生証の写しをここへ貼付

“＊”学会記入欄：Official use only

＊会員番号	＊会員種別　☐ 正　会　員（☐ 一般　☐ シニア　☐ 学生） ☐ ジュニア会員

一般社団法人日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください

氏名(ふりがな)　Name in Japanese
ローマ字表記　family name　first name

_____年Year_____月Mo_____日Day　生born on
Sex：☐ 男 Male　☐ 女 Female　Country：

学歴 Academic career：
_____学校 High school_____年卒業 Year completed
_____大学 University _____学部 Faculty _____年_____月 卒業(見込み)Year completed
修士 Master:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了(見込み)Year completed
博士 Master:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了(見込み)Year completed
※学生証の写しも忘れずに添えて下さい．

自宅住所 Home address：(郵便番号 Zip code　－　)
電話 Phone：　ファックス Fax：

所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address：(郵便番号 Zip code　－　)
※郵便物がきちんと届けられるよう，ご記入ください．
電話 Phone：　ファックス Fax：

e-mail Address：　@
※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用，その他連絡用に登録します．携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません．ご注意ください．
※所属先(代表)の問い合わせ専用　e-mail Address　は記入しないでください．

連絡先 Correspondence：　☐ 自宅 Home　☐ 所属機関 Office

会員情報について：在会者に限定し，Web版の会員管理システムにて会員情報の検索・閲覧をすることができます．氏名・所属先は掲載必須項目です．下記の項目について**掲載を拒否する項目には ☐ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)**．

☐ 最終学歴　☐ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」，「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載)
☐ 所属先住所　☐ 所属先電話・FAX番号　☐ 自宅住所　☐ 自宅電話・FAX番号　☐ e-mail Address

紹介者名(正会員)　印
Recommended by (name of member) _____ Signature

(学生のかた)
希望する会費額を選択して下さい．パック制会費選択者は，該当するパック制会費額を一括納入して下さい．

☐ 5,000円(初年度のみ) ／ ☐ 2年パック:8,000円(初年度・次年度) ／ ☐ 3年パック:9,000円(初年度・次年度・次次年度)

☐ 学生会員として入会希望です。 **学生証の写し**を入会申込書に添えて提出します。

専門部会の選択(任意)

現在，下記の14の専門部会があり活動しています．専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします．所属希望の部会を3つまで選択することができます．(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 地域地質　2. 層序　3. 堆積地質　4. 海洋地質　5. 構造地質　6. 岩石　7. 火山　8. 応用地質
9. 環境地質　10. 情報地質　11. 古生物　12. 第四紀地質　13. 環境変動史　14. 鉱物資源

興味専門分野の選択(任意)　あなたの興味専門分野を教えてください．3つまで選択することができます．(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 層位　2. 堆積・堆積岩　3. 古生物　4. 構造地質　5. 火山・火山岩　6. 深成岩　7. 変成岩
8. 鉱床地質(金属・非金属)　9. 鉱床　10. 鉱物　11. 燃料地質　12. 地熱　13. 第四紀　14. 環境地質
15. 都市地質　16. 土木地質　17. 土質工学　18. 水文地質　19. 探査地質　20. 土木工学　21. 情報地質
22. 地震地質　23. 海洋地質　24. 地球物理　25. 地球化学　26. 地質年代学　27. 地理　28. 地学教育
29. 考古学　30. その他　40. 地球惑星

(注)ご提供いただいた個人情報は，日本地質学会プライバシーポリシーに基づき適切に取り扱います．

＊受付(　年　月　日)	＊承認(　年　月　日)	＊入金(　年　月　日) 振替・現金・銀行・他	＊送本(　巻　号)

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp